

Wednesday Stage Wednesday Stage

大自然による絶景は地元民の手で守られている...

飛龍観

宮津市・天橋立

京都府北部の宮津湾と内海の阿蘇海を隔てる全長3.2キロの砂州・天橋立(宮津市)は、宮城県



島と並ぶ日本三景。龍が舞うように見える白砂青松の景観は、浸食によるやせ細りや枯れを防ぐため、たくさんの人たちに守られている。その名勝を訪ね、絶景と句の郷土料理を堪能した。鬼塚 静信

堆積砂人工的に移動

京都丹後鉄道天橋立駅から、文珠山の山上にある「天橋立ビューランド」のモノレール乗り場まで歩いて5分。山の上までは6分だ。ここは名勝を海拔1300mから見下ろす絶好の展望スペースで、レストランや展望回廊、観覧車なども備えた遊園地。空は厚い雲に覆われていたが、海には濃緑色の龍が泳いでいるようだ。

股の間からぞくと、龍は天から舞い降りる。その眺めが飛龍観だ。プリンセス天橋立の関玲奈さん(20)にも、その思いをもらおうと思ったら、観光協

龍が昇るような傘松公園からの眺めも素晴らしい



飛龍観 2カ所登龍してね



裾のぞき台のぞき

定期的な大規模清掃

その結果、現在の姿に拡大したが、皮肉にも周囲の環境が改善された現在、浸食でやせ細る危険がある。そのため京都府は沿岸流上手の防波堤に堆積した砂を、下手の天橋立まで人工的に移動させている。また「守る会」は松の保全に取り組んでいる。小谷さんは、松葉が落ちて根元に積もって木が栄養過多になると、弱る危険性があるという。そこで「守る会」では定期的な大規模な清掃作業などを行っている。

裾のぞき

北側の府中地区まで天橋立を縦断すると、徒歩で36分、レンタサイクルで14分、観光船で12分。今度はケーブルカーで海拔1300mの傘松公園に上った。ここも展望デッキやレストランを備えたレジャー施設。見下ろすと斜め一文字に延びる天橋立は龍が天に昇るようで「昇龍観」と呼ばれる。大自然の営みでできた絶景を、未来に残すために人間が守っている。そう思うと、さらに輝いて見えた。

本来は股の間から

1000年前の室町時代に雪舟が描いた「天橋立図」は、現在より短く、小天橋もない。天橋立は宮津湾に流れ込む川が運んだ砂れきが堆積したものだ。小谷さんは「江戸時代は年貢の取



第41回クレーンのはしだて

人1坪大作戦 4月10日午前8時30分から天橋立小天橋などで受け付け。同10時30分まで清掃作業。警報発令以外は決行。軍手、熊手などを所持(ゴミ袋は主催者が用意)。問い合わせは同実行委員会(0772-22-8030)へ。

水曜ステージ

昇龍観

◆大展望所めぐり

観光船が片道450円(通常500円)、往復800円(同960円)になる。



▲▲ はしだて茶屋の「あさり丼」はボリュームもたっぷり

産卵前の春が絶品

「あさり丼」

あさり丼

ランチは天橋立公園内にある「あさり丼」。大粒のアサリが、ご飯が見えないほどぎっしりのっている。顔を近づけると、ほのかな磯の香り。コリコリした食感と、懐かしさを感じる素朴な味わい。おかみの山本知恵子さん(67)は「よそのお店ではアサリを卵でとじますが、こちらはアサリから出るタシに昆布としょうゆを加えるだけです。アサリのみそ汁と出石そば、もずくが付いたセットが税込み1000円。アサリは年中食べられるが、産卵前の春がもっともおいしいという。潮騒を聞きながら心も胃袋も幸せになった。

はしだて茶屋

京都府宮津市文珠天橋立公園内(0772-22-3336)。営業は午前9時30分(4月以降は9時)〜午後5時。木曜定休(祝日の場合は前日)。



▲▲ 天橋立ビューランドからの眺めに関玲奈さんも笑顔(カメラ・鬼塚 静信) [左]昔の乙女は振り袖の裾からのぞいた

だがコクがある。辛い